雲龍寺鐘楼門

ることができます。

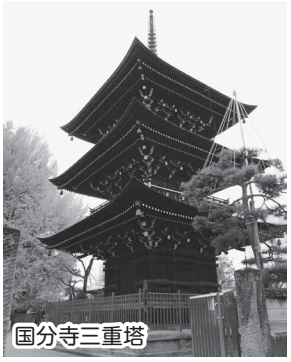
神明神社絵馬殿は城内の月見平にあった月見殿、雲龍寺鐘楼門は黄雲閣を移築改修したものです。素玄寺本堂は三ノ丸の評議所を移築したもので、同じく城内から移築された法華寺本堂とともに書院造の面影を残すものです。また、高山陣屋内の御蔵（おくら）も三ノ丸の米蔵を移築したものです。

これらの建物は比較的細い部材が使われていますが、簡素な中に優雅さと、通常の社寺建築とは異なる力強さを感じさせます。これも飛騨匠の用材の見事さとセンスによるものです。

近世・近代の匠達

ー家系ごとに伝授されてきた作風を感じながら作品を巡り、匠の伝統と感性に触れるストーリーー

飛騨の社寺建築の美しさの一つに、屋根の優美さがあります。飛騨の山々の形に似た美しさを見せる屋根の曲線は、親方から代々伝わる口伝を基に、棟梁の感性によって形作られます。装飾で飾られても、全体を見るとすっきりと簡素に見えるのも、職人の技と感性によるものです。町人文化が発達した近世以降、製作者である職人に加え、発注者であり文化の主要な担い手である旦那衆、作品を評価する周囲の町人の三者の優れた感性によって、高山では多くの名建築や工芸品が生まれてきました。


国分寺三重塔

数ある職人の家系のうち、飛騨匠の祖・藤原宗安の直系とされるのが、江戸時代中期以降4代にわたり「水間相模守（みずまさがみのかみ）」を名乗り、優れた彫刻を特徴とした水間一門です。市内中心部には二代目による大雄寺山門や法華寺番神堂、三代目による東山白山神社拝殿、国分寺三重塔があります。また、周辺には東照宮本殿、願生寺本堂、福成寺本堂、円徳寺鐘楼など多くの作品があり、一門の作風を知ることができます。

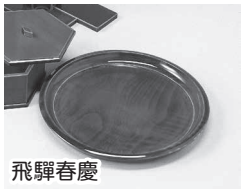
国指定重要文化財
吉島家住宅

水間相模は代々社寺建築を多く造りましたが、その流れをくむ者の作品には、それ以外のものもあります。村山勘四郎訓縄（かんしろうひろずみ）は彫刻に秀で、相模と共に高山祭屋台を作り、その子民次郎英縄（ひでずみ）も多くの高山祭屋台を手がけています。西田伊三郎は木の美しさを最大限生かし、吹き抜けの梁組が特徴的な、近代民家の代表例である吉島家住宅を作りました。

木を生かす伝統工芸

ー一位一刀彫、飛騨春慶などの作品を見て、技に触れることで木とともに生きる人々の姿を体感するストーリーー

木の美しさを生かす技は、建築以外にも発揮されました。400年前に高山で生まれた飛騨春慶は、江戸時代初期、打ち割った木の木目を生かすために透明な漆で盆に仕上げたことに始まる漆器で、透明で木地の木目が見える漆を用いるため、素材の見立て、加工から漆塗まで全てにわたって高い技術が要求されます。宗猷寺には山中を移動しながら木地椀などを作った木地師の集団墓地が残されています。


飛騨春慶

一位一刀彫は江戸時代後期、色彩を施さず、イチイの木が持つ木の美しさを生かした彫刻として完成されました。これらの伝統工芸の技術や木工技術の粋を結集して作られたのが高山祭屋台です。

一位一刀彫

高山祭屋台

問合先 文化財課 ☎35-3156

Topic 「飛騨工制度（ひだのたくみせいど）」と匠の技・こころ

奈良時代に全国で唯一定められた「飛騨工制度」にはじまり、古代以来、万葉集、今昔物語集などにおいて実直な木工技術者として描写されてきました。

匠の技術は、木の性質を見極め、生かす技術です。正確な技術と木の美しさを生かした質素な美しさが特徴です。

山に囲まれ雪深い気候と、使える木の種類が多いという飛騨の山の特質が、匠の技を育み、派手さを嫌い、寡黙で実直な気質を生んでいます。

※申請にあたり、古代の「飛騨工制度」について「工」の字を用いています。